

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

名古屋大学

前期日程

科目

世界史

総括

難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

新課程2年目となった今年の世界史は、歴史総合と世界史探究の分野からの出題となった。出題形式は例年とほとんど変わらず、語句記述・短文論述・長文論述であった。資料を用いた問題も例年通り出題された。出題地域は、ヨーロッパ1題、アジア3題であった。

〈特記事項・トピックス〉

今年度は昨年と同様に長文論述の第Ⅰ問で日本史との共通問題が出題されたが、昨年度は漫画を用いた問題であったが今年度は風刺画を用いた問題が出題された。また例年の短文論述は100字前後と比較的短いものが多かったが、今年度は200字を超える問題もあり、また短文論述の出題数も増加した。また内容的にも資料文を読み取って説明する問題がかなり出題され、思考力を重視した世界史探究を意識しての出題と思われる。

〈合格への学習対策〉

論述問題は単なる歴史用語の暗記だけでは対応できない。日頃から、歴史事象について、それが出てきた歴史の流れ（その前後の因果関係）や内容を把握し、そしてそれを文章化する練習が必要である。今年度多く出題された資料文を読み取って解答する問題に対応するため、過去問演習では問題の要求に該当する箇所を抽出し、それを基にまとめる力を身につけていこう。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	分野・テーマ(表題)	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
I	長文論述	イギリスからみた日露戦争	日露戦争を中心とする国際関係の推移を、指定語句（三国協商・三国同盟・日英同盟・英露協商）を用いて説明する問題。問題としては基本的な出題で書きやすかったと思われるが、時系列に沿って説明できたかどうかで点数に差がついたと考えられる。	標準
II	短文論述	古代ギリシア史	トゥキディデスの『歴史』を史料として取り上げ、彼の歴史観について考察する問題。資料文1つと歴史史料が2つあり、それぞれを読み解いて解答する問2・問3は特に難問であったと思われる。	やや難
III	語句記述・短文論述	漢代を中心とする中国史	中国西南辺境経営に関する史料を用いた問題。短文論述が5題出題されたが、ここでも歴史史料を読み取って解答する問題が1題（問3イ）あり、また歴史に対する洞察力を要求する問題（問5）が出題された。	標準
IV	語句記述・短文論述	18世紀から19世紀における東南アジアと中国の関係	語句記述は基本的な問題ばかりが問われたが、問6では、資料文から東南アジア各国と中国との関わりを読み取って説明する問題が出題された。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。